

## 第 48 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

- 日 時 令和 6 年 2 月 8 日 (木) 19:00~19:40
- 場 所 栗東市コミュニティセンター治田東 (栗東市安養寺 205)
- 主な質疑・ご意見

1 前回の開催結果の確認について  
特に意見等なし

2 令和 5 年度第 3 回モニタリング調査結果について

①処分場に由来するアルカリ性の水が入ってくることで地下水の自然由来のひ素が高くなるのではないかとの懸念について、Ks2 層におけるひ素の環境基準超過地点の pH のデータからどのように解釈できるか。

⇒土中のひ素が溶出しやすくなる条件はいくつかある。一つは、地下水の pH がアルカリ性になって、土の表面のひ素が剥がれるケース。他には、地下水が嫌気性になってきて、土中の鉄に付着しているひ素がその鉄ごと溶け出してくるケースなどがある。ひ素が環境基準を超過している地点での今回の pH の数値は、高い地点でも 7.1 や 6.9 位なので、pH の影響だけでひ素が溶けやすくなるとは考えにくい。地下水が嫌気性になっている影響の方が大きいと考えられる。

②No. 1-1 で水質自動測定器が井戸内で動かなくなっているという状態が続いているが、当初水質自動測定器を設置した目的や経緯もあるだろうし、測定ができていないことによる影響や今後の見込みについて説明してほしい。

⇒No. 1-1 において平成 27 年から 28 年位に電気伝導度の数値がだんだん上がってきた状況があり、年 4 回の調査より短いスパンで変動を確認するため、水質自動測定器を設置した。この電気伝導度の上昇については、アドバイザーの助言を受けながら平成 20 年代後半に詳細な調査を実施して、処分場の影響ではないという結論が出た。また、それ以上の上昇はなく、100mS/m を超えるような影響は出ていないことから、一定の設置目的は達したと考えている。なお、水質自動測定器については、昨年度は工期が不足して井戸から取り出せなかったが、現在取り出す作業をしている。

③水質自動測定器を取り出した後は、再度投入するのか。

⇒水質自動測定器は、井戸のサイズに対しギリギリの大きさのため、井戸が経年で歪んでいることもあることから、また取り出せなくなる可能性が高い。加えて、一定の設置目的を達成していることから、同様の機器を設置することは難しい。取り出した状態を確認して判断する。

3 維持管理の状況について  
特に意見等なし

#### 4 その他

④最近、甲賀市にあるクリーンセンター滋賀（産業廃棄物管理型最終処分場）が廃棄物の受け入れを終了したが、今後はどうされるのか。新たな処分場を建設するのか。

⇒クリーンセンター滋賀については、昨年10月末で廃棄物の受け入れを終了したが、今後も一定の管理が必要で水処理等を数十年単位で継続していくことになる。この処分場の設置当時は、産業廃棄物の処分先が少なかったことから、一定の行政関与のもと最終処分場が建設されたが、最近では全国的に処分場が不足している状況にない。今後、産業廃棄物の多くは県外の管理型最終処分場で処分されることになるが、現時点では、県として新たな処分場を建設する計画はない。